― 平成29年度 事業報告書 ―

若者を中心とした森づくり活動を通じて、人と森の輪を広げる

NPO法人　トチギ環境未来基地

代表あいさつ

塚本　竜也
Tatsuya　Tsukamoto

　平成29年度もたくさんの人たちのご協力、ご支援により活動を行うことができました。
若者のチームによるConservation Corpsプログラムには毎回日本の若者だけでなくアジア各国からの若者も参加して３ヵ月間一緒に活動をしています。平成29年度はフィリピンで過去の参加者と協力して、パラワン島の環境保全活動に取り組むワークキャンプを開催することができました。栃木での活動の後もこうして活躍するメンバーの姿に改めて活動の意義を実感しています。
　茂木町で森の幼稚園を行う、空と森のようちえん、あいうえおの皆さんと取り組んだやっほうの森づくりは、面積も広く多くの作業を必要としましたが、たくさんのボランティアの皆さん、みどりの中間的就労訓練に参加した若者の皆さんと完成までやり遂げることができました。森で遊ぶ子どもたちの姿に元気をもらいます。
　最近は、これまで森づくりボランティア活動を引っ張ってこられた団体の皆さんのメンバーの高齢化に伴う活動継続の難しさについてもご相談をいただくことが多くなりました。地球環境基金の助成をいただいて３年間取り組んだ、若者と森づくり団体のマッチング活動も一定の成果を上げてきました。活動を引き継ぐという点でも若者たちの活躍への期待が高まっていることを感じます。
　平成29年度の経験や新たなつながりもいかしながら平成30年度もさらに活動を発展していけるように取り組んでいきます。引き続きのご参加、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

平成29年度を振り返って

森での活動

日数　211日
のべ 1,739人
実数　353人
NEW　290人

森以外での活動
（イベントなど）

９回
711人

整備の面積

森林・里山 10ha
竹林　 3ha

苗木forいわき

日数　40日
のべ　1,617人
苗木18,000本

・今までの活動の棚卸しを行い、ビジョンとミッションを見直しました。

活動を始めてもうすぐ10年がたちます。自分たちが取り組むべき課題は「森の問題」と「人（主に若者）の問題」であることを再確認し、ビジョン、ミッションをはじめとして、団体が取り組むべき社会の課題や目指すことを整理しました。

・「森づくり x 中間的就労訓練」みどりの中間的就労訓練が始まりました。

森づくりを通して色々な社会課題や異なる分野と連携して取り組んでいますが、今年は特に中間的就労訓練（＊）を森林、里山、林業など緑に関わる分野で創出していくことに力を入れてきました。中央ろうきん若者応援ファンドの助成をいただき、毎週1回程度、73回、のべ222人が参加しました。
＊中間的就労訓練とは、ニート、ひきこもりなどの若者が、就労の訓練ができる、一般就労と福祉的就労の間に位置する就労形態です。

・会員の活動、「森で遊び隊」チームが発足しました。

会員の中で、「子どもが好き」、「アウトドアが好き」という人たちに協力してもらい、自主活動として、益子町にある美里学園の森での親子向け自然体験イベントを企画、運営を一緒に担ってもらいました。10月の美里学園の学園祭でのブース出展や、12月にも「親子で楽しむ森フェス」を実施しました。

事業スケジュール(平成29年4月～平成30年3月)

	事業内容	イベント
4月	とちぎ学生未来創造会議との活動	
5月	第16期Conservation Corpsプログラム（～7月） しごとや集中訓練（宿泊・日帰り）受入 「苗木forいわき」のクロマツの受け渡し	エコフェスタ（高根沢町）出展
6月	みどりの中間的就労訓練がスタート（～3月） 県南サポートステーション集中訓練（宿泊）受入	チェーンソー＆リーダーシップ講座主催
7月	とちぎYMCAから日米高校生が参加	
8月	いちかい子育てネット羽ばたきの体験イベント企画	
9月	第17期Conservation Corpsプログラム（～11月） １週間ワークキャンプ主催 (株)ホンダトレーディング新人研修	宇都宮大学の人材養成塾受入 チェーンソー＆リーダーシップ講座主催 木を植える音楽の本出版イベント
10月	創造の森での自然体験活動 しごとや集中訓練（宿泊・日帰り）受入	美里学園祭出展 (株)富士通小山工場イベント出展
11月	(株)NTT東日本(全国)との活動 (株)NTT東日本(栃木支店)との活動	ECOテック＆ライフとちぎ（宇都宮市）出展
12月	益子町の美里の森にて親子で楽しむ森フェス主催 「苗木forいわき」のクロマツの引き取り	TOYBOX（益子町）出展 ファーマーズマーケット（宇都宮市）出展 サンタdeラン参加
１月	栃木県イメージアップ貢献賞 産業経済部門受賞 ワクワクキャンプサポート	
２月	市貝町の刈生田の森にて落ち葉集めイベント １週間ワークキャンプ主催 地域づくり担い手プロジェクト受入	
３月	フィリピン、パラワン島WORKCAMP主催 愛知県立大学Ruffチームとの活動	トライ東との木を植える音楽会

＊赤字の主事業、新規事業は、５～６ページに詳細を掲載しています。

各事業のハイライト

３ヶ月間合宿型環境保全活動、Conservation Corpsには総勢68人が参加！（2009～）

第16期 5月10日～7月2日
２名（フィリピン、メキシコ）

第17期 ９月１日～11月20日
５名（ベトナム、日本、台湾、フィリピン）

団体を設立したときから、Conservation Corps（コンサベーション コア）プログラムを年２、3回実施しています。毎週３–4日は森の現場へ、1日はNPOや環境保全を学びます。

ーこれは私の人生で最もやりがいのある経験です
（ルビーさん　27才/ ベトナム出身）

私はこのプログラムの期間中、森林保全とその重要性について沢山考えました。 ただ森林を整備するだけでなく、環境保全を促進し、子どもや若者が自然に親しむ機会を提供することなど、多くの目標があることがわかりました。また、リーダーシップやNPOなどの知識も学びました。将来ベトナムに帰った後の私の人生に大きな役に立つことができると信じています。
特にボランティア活動や森林保全の分野でよりよい活動家になれると思います。 また、森林保全と日本文化に関する自身の経験を広く故郷の若者に共有することで、より多くの人々が森林保全活動に参加することを期待しています。

Conservation Corpsプログラムとは？

米国で行われている、若者がチームで、長期間、地域貢献活動に取り組むプログラムで、年間約25,000 人もの若者が参加しています。若者がより良い地域をつくるための力として活躍し、参加する若者もその活動を通じて大きく成長し、日本でも注目されています。

参加者の縁が広がり、フィリピンのパラワン島でワークキャンプを実施！

パラワン島の環境保全ＮＧＯ、Centre for Sustainability ＰＨ（センター・フォー・サステナビリティー・略称ＣＳ）と一緒に活動しました。ＣＳは、森林・海洋の保全を通し、パラワン島の持続的な未来を残すために活動をしています。主に３つの生活、教育、環境保全をテーマにし、それぞれが連携、統合しながら、活動しています。トチギ環境未来基地にインターンとして参加したＣＳのスタッフが縁となり、フィリピンの環境保全を日本からの応援として「パラワン島ＷＯＲＫＣＡＭＰ」を3月5日～3月14日の10日間、8人と弊団体スタッフ1人が遠いフィリピンの森で汗を流しました。

「世界の環境は繋がっている。」広い視点で考えたときには、日本の環境を守ることだけではなく、世界の環境を守ることが必要です。世界中で環境保全が進むことは、身の回りの自然が豊かになることにも繋がります。来年以降も開催に向けて計画中です。

参加者の声（アンケートより抜粋）

私が今回のワークキャンプに参加して感じたことは、従来の自然を守ることと観光地化することの両立の難しさです。この二つは矛盾することのように思えますが、考えてみると日本の屋久島など多くの観光地が自然を守りつつ観光地化しているということに気づきました。今回私たちが行ったことは本当に微々たることですが、この活動が起点となり、少しでもパラワン島の開発の力になっていったら嬉しいです。

「みどりの中間的就労訓練プログラム」の参加者も大活躍！

みどりの中間的就労訓練では、幼稚園の森や福祉施設の森等で作業を行いました。若者たちの一生懸命活動する姿を地域の方々がほめてくださり、若者たちの自信につながりました。特に、長時間取り組んだ幼稚園の森では、こどもの保護者の方などがとても喜んでくださって、若者たちもうれしそうでした。こどもたちが、自分たちが整備した森で楽しそうに遊んでいる姿を見ている若者の姿も感慨深いものでした。引き続きこのプログラムを、新たな若者を迎えながら実施し、若者の活躍が元気な森を増やしていることについてもより共感を得られる形で発信していきたいと思います。

実施した日数：内部型13日、外部型43日
延べ参加者数：内部型36人、外部型149人

参加した若者の変化
参加した若者たちが、それぞれのペースで次のステップに進むことができました。何度も参加してくれた若者の中には、進路を決めることができた人や、この活動に参加して、第一次産業に興味をもち、農家でアルバイトを始めた人もいて、有意義な時間と経験を生み出すことができました。

中間的就労とは?

一般就労（一般労働市場における自律的な労働）と、福祉的就労（障がい者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律に定められたもの）の間に位置する就労形態で、就労と、訓練の中間という意味も持っています。その、中間的就労訓練を、森林、里山、林業など緑に関わる分野で創出していこうというのが、みどりの中間的就労訓練です。みどりの中間的就労訓練は、若者たちの就労に向けた経験の機会としてだけでなく、人手不足で困っている森林や里山の整備にこうした若者の力を導入しよりよい環境づくりを進めるという２つのメリットが同時に生まれる活動です。

若者が森づくり団体で活動するには？

森林ボランティア団体は年々増加しているが、ボランティア参加者の51％は60才以上というのが現状で、活動団体の多くは、「高齢化」、「後継者不足」の課題を抱えています。

この課題を克服するためには、若者を活動に巻き込み、担い手としての力をつけ、団体にマッチング（派遣）し、協力して活動を運営していくことを支える、という仕組みが必要です。

「高齢化」、「後継者不足」に課題を抱える団体にやる気ある若者が加わり、それらの団体がこれまで築き上げてきた活動をとだえさせることなく、持続発展させる方向に向かうようになることで、今後の森林、里山保全の大きな力となることを目指しています。

活動実績１：
若者向けトレーニングプログラムの実施。
3年間で、計11回開催し、73人の若者が参加。森づくり活動の基本的な技能を学ぶ場としました。

若者トレーニングプログラムの内容：
【1日目】
・森づくり活動の必要性の講座
・チェーンソー、刈払い機の安全講習と実技指導
【2日目】
・コミュニケーションやチームワークのワークショップ
・グループ活動の理論
・課題解決ワークショップ

活動実績２：
団体向け研修の実施。
計15団体への研修を実施しました。（公募、個別含む）また新規若者グループの設立・継続支援について4団体へ研修を行いました。

ベテラン団体だけではなく、若者たちが自発的に森づくり活動のグループをつくり活動を始めることへの支援も有効ではないかと中間コンサルテーションでご助言いただきました。それを踏まえ、平成29年度は若者向け「森づくり活動グループスタートアップ研修」を開催し、新規若者森づくりグループの活動開始・継続支援を行いました。

「若者を中心とした森づくり」が目指すこと

ビジョン

自然とともに、自分らしく生きられる社会

ミッション

つくる―地域の人に愛され、暮らしを支える森をつくる
育てる―森と社会を想い、行動する若者を育てる
広げる―次世代につながる人と森の輪を広げる

活動する人たちと一緒に育つ
＝森の仕事だけでなく、リーダーシップやチェーンソー講座などで技術をみがく
＝年齢や出身、国、所属が違う人と一緒に活動することで多様なアイディアが生まれる

・3ヶ月間合宿型環境保全活動Conservation Corpsプログラムボランティア
・日帰りや１週間ボランティア
・若者自立支援団体の利用者
・企業や大学生などのグループボランティア

森林が舞台となってつくる新しい形の活動
＝　森の整備だけでなく、人が森に入るためのしかけをつくる
＝　初めて作業する人も、ベテランの人も活躍できる作業

子どもが遊べる森

・創造の森（こども園の森）
・やっほうの森（森のようちえんの森）
・希望の丘（地域の子どもの森）

地域の憩いの森

・美里の森（福祉施設の森）
・ふじ山（サシバの里の里山）

自然の多様性を守る森

・刈生田の森（サシバの里の里山）
・竹原の森（那珂川流域の竹林）
・瑞穂野の森（街中の平地林）

＊災害などの非常事態のときは、可能な復旧・復興ボランティアにも参加します。
・苗木forいわきプロジェクト（東日本大震災で被害を受けた海岸林の再生活動）

人と森の輪を広げて、次世代につなぐ
＝　環境保全活動を多くの人に伝えたり、たのしく学べる機会をつくる

・環境、地域関係のイベントに出展し、体験、学びの場をつくる
・環境系団体向け講座
・森林里山保全活動に関するシンポジウム

メディア掲載・受賞など

● 栃木県イメージアップ貢献賞を受賞しました！

1月15日宇都宮グランドホテルにて、栃木県産業協議会さまより、栃木県イメージアップ貢献賞の産業経済貢献賞を頂きました。 昨年度3月に農林水産省主催のオーライニッポン大賞、内閣総理大臣賞を頂いたことと、県内での若者を中心とした森づくり活動を評価していただきました。 これまでの活動を評価していただき、本当にありがとうございます。

新聞など

・益子の環境保護団体に100万円　（７月12日　下野新聞）
・森守る活動参加 心が癒された（8月　下野新聞）
・未来を紡ぐ若者と環境の架け橋に（No.125,8月 林野/林野庁）
・音楽で支援活動 一冊に（10月20日 下野新聞）
・NTT東日本栃木支店の社員らが森林整備（11月17日　下野新聞）
・親子で森遊び（12月16日　しんぶん赤旗）
・県産業協議会 DC全面協力（1月16日　下野新聞）
・森づくりに足りない人材、社会とつながれない若者の力を森で活かす（319号9月 ビッグイシュー）

ラジオ

・崖っぷちラジオ出演（5月　宮ラジ） / ・エコラジ　出演（８月4回　レディオベリー）

講演・講座等

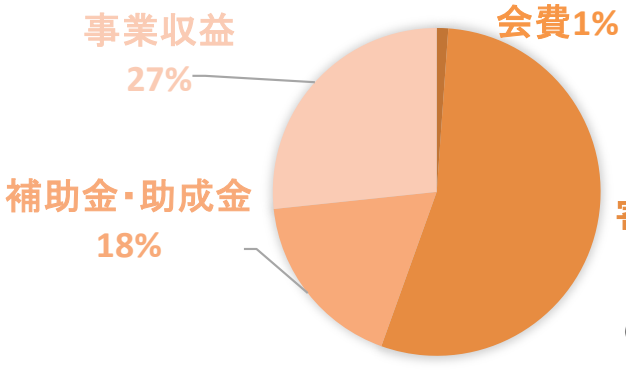
栃木県市町職員研修　講座
農山漁村コミュニティービジネスセミナー（東京）　講演
人づくり・地域づくりフォーラム in 山口　講演
栃木の里づくり人材養成塾　先進地研修　講座
これからの森林環境教育・森林ESDを推進するセミナー　講座
宇都宮中央倫理法人会モーニングセミナー 講話　　など

助成事業

● 地球環境基金
若者ボランティア育成・マッチング制度による、活動団体の「高齢化」、「後継者不足」問題の克服を通じた森林・里山保全活動強化事業
● 中央ろうきん若者応援ファンド
若者応援の出口をつくる、出口につなげるプログラム
●日本フィランソロピー協会 かんぽ生命保険寄付プログラム
栃木県茂木町及び那須烏山市における清流「那珂川」周辺の里山、竹林の整備事業
● たかはら 子ども未来基金　学生インターン部門
「子どもの里山プロジェクト」へのインターン

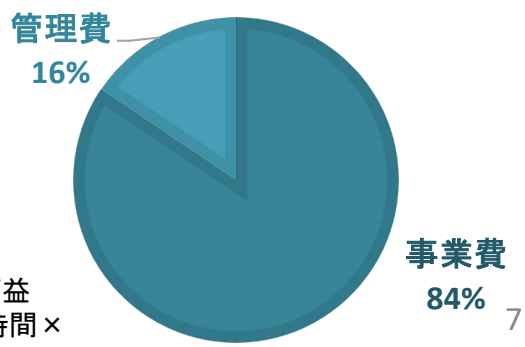
収支報告

収益
22,639,720円



＊ボランティア評価益（ボランティアの活動時間×栃木県最低賃金733円）の6,944,000円を寄付金に含む

支出
22,562,036円



SPECIAL THANKS

▽たくさんのボランティアのみなさま
▽風とみどりの認定子ども園
▽NPO法人いちかい子育てネット羽ばたき
▽社会福祉法人 美里のぞみの里福祉会 美里学園
▽空と森のようちえん あいうえお
▽ NPO法人NICE（日本国際ワークキャンプセンター）
▽市貝町ふじやまを保存する会
▽森林・竹林・里山を整備する仲間の会
▽NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
▽認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク
▽フクシマ環境未来基地
▽NPO法人いわきの森に親しむ会
▽Centre for Sustainability
▽苗木forいわきプロジェクトのクロマツパートナー
さくら市立上松山小学校、上三川町立坂上小学校、コマツ株式会社小山工場、
市貝町観光協会、トライ東、高根沢町フリースペース ひよこの家、個人の方
▼一般社団法人 栃木県若年者支援機構　集中訓練
▼一般社団法人 とちぎ青少年自立援助センター 集中訓練/寮生受け入れ
▼とちぎ学生未来創造会議
▼NTT東日本株式会社（本社）（栃木支店）
▼ホンダトレーディング株式会社
▼愛知県立大学　国際ボランティアサークル　Ruff
▼とちぎYMCA
▼富士通株式会社　小山工場
▼とちぎ青少年センター

特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地
平 成 ２９年 度　事 業 報 告 書

平成30年５月31日発行

編集・発行　　特定非営利活動法人 トチギ環境未来基地　事務局
発行責任者　　塚本 竜也

連 絡 先
特定非営利活動法人トチギ環境未来基地
〒321-4104 栃木県芳賀郡益子町大沢2584－1

TEL/FAX 0285-81-5373
E-mail　tochigi@conservation-corps.jp
URL　http://www.tochigi-cc.org
Facebook　https://www.facebook.com/TochigiCC
Twitter　@tcc20090612